

第43回日本フィッション・トラック研究会実施報告

末岡 茂

第43回日本フィッション・トラック研究会は、2018年11月28日（水）～30日（金）の3日間にわたり、神戸市元町のJEC日本研修センターで開催されました。今回もESR応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会として実施されました。例年に比べると、早い時期の開催であったにもかかわらず、参加者は42名、研究発表件数は29件（うちポスター1件、特別講演1件）に上る盛会となりました。

研究会は、ESR、ルミネッセンス、FTなどのセッションに分けて行われました。今年度は例年より開催時期が早かったせいか、学生さんの中には直前まで発表準備に追われたり、予察的な成果のみでの発表となったりと、苦闘していた方々も見られましたが、卒論や修論に向けて、良い練習と取りまとめの機会となったのではないのでしょうか。特別講演は、神戸大学の高橋覚先生に、「気球搭載エマルジョン望遠鏡による宇宙高エネルギーガンマ線精密観測実験GRAINE」というタイトルでご講演頂きました。線量計測つながりということで、天体からのガンマ線を観測するためのエマルジョン望遠鏡という手法の高度化を目的として、オーストラリア・アリススプリングスで行われた気球実験等について、お話を聞くことができました。また、2019年の固体線量計測国際会議（SSD19）、2020年のEPR BioDose国際会議、2024年の熱年代学国際会議（Thermo2024）など、日本国内で予定されている国際学会についても、いくつか紹介がありました。このように多くの国際会議が日本に招致されるのは、日本のESR・ルミネッセンス・FTの業界が、国際的にも高い評価を得ている証と言えます。関係者の方々に置かれましては、会議の準備・対応には多大なご苦労が伴うかと思われませんが、業界の今後のさらなる発展のためにも、各会議の成功を願ってやみません。

今回の研究会開催にあたっては、大阪大学の山中千博先生と神戸大学の谷篤史先生、および学生諸氏に大変お世話になりました。会場のJEC日本研修センター（神戸元町）は、南京町の中華街や旧居留地、ルミナリエなどの観光地に囲まれた素晴らしい立地でした（建物の入り口が分かり辛く、初日は道に迷う方が続出したという零れ話はありませんが）。研究会の合間の散策や食事の行き先に困ることはなく、参加者の方々も神戸の街を堪能できたのではないかと思います。来年度の合同研究会につきましては、不肖ながらわたくし末岡の世話により、11月下旬頃を目標に岐阜県の東濃開催で調整中です。

出席者（所属）：

網本 真奈（岡山理大），五十嵐 雄大（金沢大），伊藤 一充（産総研），伊藤 久敏（電中研），大平 寛人（島根大），岡 壽崇（東北大），小畑 直也（蒜山地質），梶田 侑弥（京都大），上口 椋（金沢大），楠木 健太（神戸大），小島 響（神戸大），小林 侑生（京都大），佐久間 幹（川崎地質），櫻井 康博（京都工繊大），佐藤 李咲（石川県立大），下岡 順直（立正大），島崎 達也（熊本大），島田 愛子（JEOL），末岡 茂（原子力機構），高田 将志（奈良女大），田上 高広（京都大），田中 桐葉（東北大），谷 篤史（神戸大），田村 明弘（金沢大），田村 亨（産総研），壇原 徹（京都FT），戸高 安曇（岡山理大），豊田 新（岡山理大），中村 敏和（分子研），蛭川 清隆（岡山理大），橋本 将也（島根大），長谷部 徳子（金沢大），服部 渉（旧アガペ研），福田 将真（京都大），三浦 知督（金沢大），水田 幸男（JEOL），三輪 泰大（神戸大），村松 敏雄（新潟大），保田 浩志（広島大），山沖 留美（大阪薬科大），山中 千博（大阪大），山本 晃弘（京都大），

（計42名，敬称略，五十音順）

